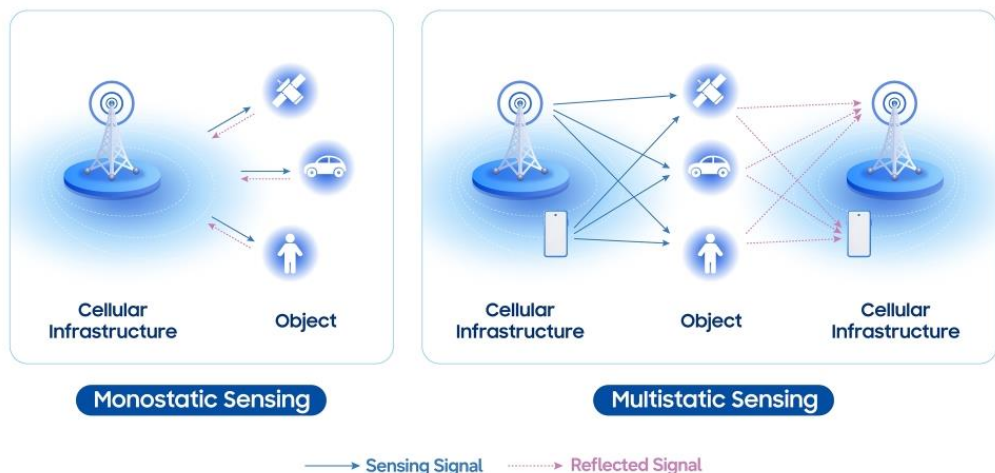


6G

Samsungと韓LGU+、 6G向けISAC技術の共同研究で提携

- SamsungとLGU+は、6Gの中核技術であるISAC*の共同研究に関するMOUを締結した。Samsung Researchが技術開発を主導し、LGU+は商用ネットワークを活用した実証・検証を担う。
- ISACは、基地局など既存の通信インフラを用いて周辺環境をセンシングする技術であり、専用のレーダーやLiDARを用いずに人や物体の位置・移動方向・速度などを把握できる。
- 両社は5Gネットワークおよび6G候補周波数である7GHz帯で実証を進め、人検知による安全性向上やネットワーク運用効率化などのユースケースを検証する。

* ISAC(Integrated Sensing and Communication)

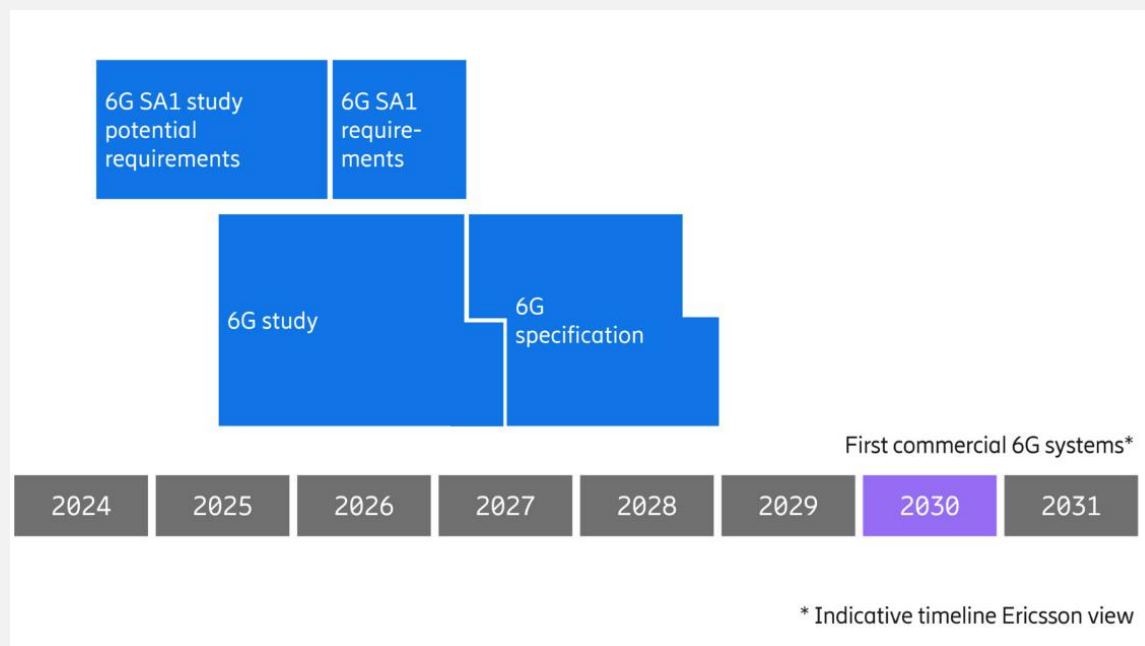


(出典) [Samsung Newsroom](#)

6G

3GPP、6G標準化スケジュールを正式決定

- 3GPPは、初の6G仕様を含むRelease 21の標準化スケジュールを正式承認した。Release 21の仕様策定は2027～2028年に行われ、2029年前半の仕様完成を目指す。
- 今回の会合では、6Gシナリオ・要件に関する検討が完了し、初の6G仕様策定に向けた標準化作業が本格化した。
- 帯域幅、セキュリティ、無線アーキテクチャなどに関する技術検討が進展している一方で、5Gから6Gへの移行方式に関する議論は継続中である。



(出典) [6G standardization milestones and RAN decisions - Ericsson](#)

プライベート5G

Orange Spain、プライベート5Gエッジ統合管理プラットフォーム「Conecta 5G」を発表

- Orange Spain(MasOrange)は、企業および公共機関向けに、プライベート5Gおよびエッジコンピューティングの管理を支援するプラットフォーム「Conecta 5G」を発表した。
- 同サービスは、分散した5Gネットワークおよびエッジ環境を統合的に管理することを目的としており、法人向け5Gポートフォリオの拡充と、低遅延サービス需要の拡大に対応した俊敏かつスケーラブルな運用基盤を提供をしている。

管理対象	• プライベート5G • MEC
管理要素	• SIM • NWスライス • オンプレミスデバイス
管理方法	• 統合インターフェース(End-to-End)
対応環境	• マルチクラウド • オンプレミス型
特徴	• 分散サービスを単一プラットフォームでの管理 • ドローン、緊急通信、映像監視等の分野で活用可能

衛星IoT

Telenor IoTとSateliot、地上・衛星シームレスIoT接続に向け提携

- Telenor IoTとLEO衛星通信事業者Sateliotは、地上ネットワークと衛星ネットワークを組み合わせたIoT接続の実現に向けて戦略提携を発表した。
- SateliotのLEO衛星は3GPP Release 17の5G NTN規格に準拠しており、対応する標準NB-IoT端末は専用ハードウェアや独自の接続開発なしで衛星ネットワークへ接続できる。
- 両社は、地上モバイル網と衛星網を組み合わせたグローバルIoT接続を目指し、農業・海運・物流・エネルギーなどの分野での活用を想定している。
- また、スペインでの実証ではTelenor IoTのSIMがSateliot衛星網へ長時間接続可能であることを確認しており、今後は複数国で試験を拡大する予定である。

提携企業	• Telenor IoT、Sateliot
通信方式	• 地上網+LEO衛星網
想定用途	• グローバルIoT接続

5G CA

豪OptusとEricsson、
5G SAキャリアアグリゲーション(5G CA)を実網で検証

- 豪OptusとEricssonは、5G SAキャリアアグリゲーションを商用網(2.3GHz帯と3.5GHz帯 計180MHz幅)で実証した。この周波数帯を用いた高速化は初めてである。
- さらに900MHz帯と2.1GHz帯を加えた4CC構成(計220MHz幅)では、下り最大3.4Gbps、上り最大200Mbpsを達成した。
- 本技術はネットワーク容量の拡張と高トラフィック環境での性能向上を目的としたものであり、FWAなどへの活用も想定されている。
- Optusは、今後12～18か月で、シドニー・メルボルンの都市部ネットワークに順次展開する計画である。

構成	• 4CC*1(900/2.1/2.3/3.5GHz)／下り220MHz幅 *1 4CC:4つの周波数帯域を束ねた構成
環境	• 2.3GHz + 3.5GHzの2帯域を統合(合計180MHz幅)
性能	• 商用ネットワーク + 市販端末(Galaxy S26 Ultra等)
	• 上り200Mbps、下り3.4Gbps

6Gフィールド試験

中国、6GHz帯で6Gフィールド試験を開始

- 中国は6G開発に向けて、6GHz帯の試験用周波数の利用を承認した。これにより、中国国内の一部地域において次世代無線技術の実環境試験を開始できるようになる。中国は2030年前後の6G商用化を目指しており、今回の動きはその実現に向けた取り組みの一環である。
- 本試験はMIIT(中国工業情報化部)が推進し、IMT-2030(6G) Promotion Groupが調整を担う。また、国際電気通信連合(ITU)が定める主要なシナリオおよび性能指標に基づいて実施される。
- 中国は、2023年に世界で初めて6GHz帯を5G・6G用に割り当てた国であり、これまで同帯域での実施試験は認可されていなかった。今回の承認はその次の段階にあたる。

周波数	• 6GHz帯
推進体制	• IMT-2030(6G)Promotion Group
試験基準	• ITUが定める主要シナリオ・性能指標に基づく

5G NWスライシング

ベルギー初、Proximusが3つの5Gスライスを同時稼働

- ベルギーの通信事業者Proximusは、サッカーベルギー代表のワールドカップ出発前最後の国際親善試合において、単一会場で3つの5G SA基盤のネットワークスライスを同時に稼働させる。
- これら3つの専用5Gスライスは、スタジアム内外における医療支援、試合のメディア中継、モバイル決済という3つの重要サービスを支える。
- 数万人の来場者が集まるライブ環境において、複数のネットワークスライスを同時に運用するのはベルギー国内で初の取り組みである。

種別	用途	対象	効果
Mission-Critical Slice	医療支援	UZ Brussels 医療チーム	•安全・高信頼の医療通信環境を提供
Broadcasting Slice	メディア中継	DPG Media	•ライブ配信のバックアップ回線提供
Event-Critical Slice	モバイル決済	来場者	•決済遅延防止を通じた待ち時間短縮

プライベート5G

Ericsson、Verizonビジネス向け
プライベート5Gを海外展開へ

- Ericssonは、同社のプライベート5GをVerizon Businessの海外ネットワークにも提供を開始すると発表した。これにより、米国で既に導入実績のある多国籍企業は、米国内で利用しているプライベート5G環境を海外拠点やキャンパスへ展開できるようになる。
- AI活用やデジタル化の進展により、高セキュリティ・高速・低遅延な通信基盤への需要が拡大する中、今回の協業によりVerizon Businessは、グローバル企業に対して拠点横断で柔軟に利用可能なプライベート5Gの提供を強化する。
- 本ソリューションは製造・物流・医療等の分野での活用を想定しており、プライベート5Gの導入が個別拠点からグローバル全社インフラへ拡張する動きを示している。

対象	•Verizon Businessの海外向けプライベート5G NW
メリット	•海外拠点間での統一したネットワーク運用を実現
領域	•製造:スマートファクトリー、自律ロボット、予知保全
	•物流:倉庫自動化、資産追跡
	•医療:遠隔診断、次世代の画像診断技術
	•エネルギー:インフラ遠隔監視、スマートグリッド
	•教育・研究:スマートキャンパス、AI研究

AI RAN

Ericsson、基地局向けAIソフト「AI in RAN」を発表

- Ericssonは、無線アクセスネットワーク(RAN)内部でAIをリアルタイム実行するサブスクリプション型ソフトウェアの「AI in RAN」を発表した。基地局に通信事業者向けAIモデルを直接組み込み、ネットワーク性能向上、運用自動化、省エネ化を実現する。
- 本ソリューションは追加ハードウェアを必要とせず既存5Gネットワークに導入可能で、導入初期から性能改善が期待できるとともに、AIを前提とした次世代RAN(AI-native RAN)への移行を支援する。
- Ericssonによると、本技術はすでに世界15件以上の商用導入・実証で検証されており、2026年Q2より提供を開始予定である。

提供形態	ソフトウェアのサブスクリプションサービス
提供対象	Ericsson 5G Advanced (専用基地局・Cloud RANの両方に対応可能)
主要機能	RAN最適化、自動運用、省電力化
実証効果	通信速度:下り最大20%向上 周波数利用効率:最大10%改善 高トラフィックユーザー収容数:最大2倍 カバレッジ予測精度:約90%～95% 位置推定精度:最大5倍向上

※スケジューラ技術においてもAIを導入した「AI-native Scheduler with Link Adaptation」をT-Mobileの商用網で検証しており、周波数利用効率10%・下りスループット最大15%向上

5G SAソリューション

CelcomDigi、マレーシア初の産業向け5G SA活用「高度インテリジェント倉庫」を開設

- マレーシアの通信事業者CelcomDigiは、同国初となる5G SAを活用した産業向けインテリジェント倉庫を開設した。AI、ロボティクス、自動化技術を組み合わせて、物流・倉庫業務の高度化を実運用に近い形で実現するB2B向け商用ユースケースとして展開する。
- 同施設では、5G SAネットワークと自律システムの統合により、倉庫スペースの利用률을30%改善、業務効率は50%以上向上、在庫精度は100%を達成した。また複数の技術パートナーと連携した統合ソリューションとして、物流分野におけるデジタル化を推進する。
- CelcomDigiは本施設を、企業が5GとAIの活用を体験・検証できるイノベーションラボと位置付けており、これは、5G SAがビジネスでどのように活用されるかを示す事例である。

導入ソリューション	倉庫管理システム(WMS):在庫・倉庫運営可視化 自動パレット搬送:保管・出庫の自動化 5G対応AGV*:自動搬送による省人化 AI映像監視:安全監視・異常検知 AI自律ドローン:棚卸、在庫確認の自動化 デジタルツイン:倉庫全体のリアルタイム運用最適化
-----------	---

* AGV(Automated Guided Vehicle)
:設定された経路に沿って走行する無人搬送車